

## 泣き叫び声のおこうには……

歯科衛生士 近藤 淳子



「よく来てくれたね！」  
ぐずぐずと入室を嫌がる患者様に笑顔で声をかけるDr. それと一緒に「待ってたよ～元気に来てくれて嬉しいよ～」という声かけで始まる小児・障害者エリア。

新棟になり22名の歯科衛生士が5つのブロックに分かれ、その配属科を中心に全体を見ながら業務を行なっている中、私はこの小児・障害者・矯正エリアで毎日働いています。

ここでは、治療困難な重度の心身障害の方、恐怖心が強く非協力児として治療途中で放置されたままの方など、一般の開業医では対応できなかった方々の診療を行なっています。いかに安全に、そして素早く治療を終わらせるか！ が最大の課題となる中、Dr が治療に集中できる様に、3本4本目の手となるアシスト業務が重要な仕事となります。小さな口、開かない口、首を横に振り全身で嫌がる子ども・障害者の診療、私たち衛生士は、顔を固定し、まずは治療できる環境づくりのアシストをします。体動の激しい方には、レストレーターで体を固定します。小さな体にネットで動けなくなっている我が子の姿に、理解し同意したはずなのに……涙を流す付き添いの両親。「車のシートベルトと一緒に。だから安心なんだよ～いっぱい泣いていいんだよ～」と、患者様、むしろ付き添いの両親にも声をかけます。嘔吐反射の強い方、恐怖心の強い子どもには、笑気麻酔下での診療も行います。7台のユニットの内2台が個室、その内の1室に医療ガスが設置されています。

もちろんこの笑気ガスマスクを付けるにも、あの手この手を使います。鼻マスクは「わあ～ミッ

キーマウスに変身だね～」と声をかけ、マスクの内側には、バニラエッセンスを塗り、「ホットケーキの匂いがするね～」と優しく導入します。

こんな感じで、患者様、家族に対してDr・DHがチームで、いかにスムーズに、安全を維持しながら、目標の治療を達成させるか、毎日奮闘しています。

私は、歯科衛生士になり、うん十年経ちます。開業医に勤め、専業主婦も数年やり、保健センターで保健指導の仕事を10年近くやってきました。大学受験目前の長男と、短い制服のスカートをひるがえしている女子校生の母でもあります。そんな経験も生かしてリスクの高い患者様に、集団指導ではできなかった保健指導、情報提供やアドバイスを予防処置としてやっていきたいのです。患者様にとって、一番身近な存在に。小児のDrの惚れればれる診療とセットで衛生士が予防処置・保健指導を行う！ これからの衛生士が活躍できる場がひろがるように、おばちゃん衛生士頑張っていこうと思います。

このエリアには4人の衛生士がチームワークNo.1で毎日満点の笑顔で頑張っています。

泣き声と叫び声のおこうには、ほっこりとした暖かい診療が……

たまに覗きにいらして下さいね！

次のページは私の尊敬する大好きな、歯周病認定歯科衛生士、渡辺美幸さんです！

最強のチームワーク



## 移転後の外来～歯科衛生士の視点から～

歯科衛生士 渡辺美幸

近藤淳子さんからバトンを引き継ぎました。  
歯学部ニュースをご覧の皆様。はじめまして。  
診療支援部歯科衛生部門歯科衛生士の渡辺美幸と申します。

私が配属されている3ブロックは「歯の診療科」「義歯診療科」「冠ブリッジ診療科」「顎関節治療部」「インプラント治療部」の5診療科から構成され、歯科衛生士は7名配属されています。5つも診療科がありますので、1日の来院患者数はかなり多く、新急患も毎日大盛況ですので、常に非常に忙しいブロックです。

アシスタントの内容も多岐にわたり、それぞれの治療に対する知識が要求されます。

また、患者層も幅広く、有病者や年配の方も多い為、疾患の知識や、個人のADLに応じた介助の仕方を学んでいく必要もあります。

時には人手が足りず、コールが鳴ってもすぐに駆けつけることができないこともあり、先生方には多大なご迷惑をおかけしております。

また、全ブロックの中で歯周メインテナンスの患者数もダントツに多く、歯周基本治療の段階から患者様を担当し、患者教育から関わることができるので歯科衛生士としては非常にやりがいがあるところです。

私は主に「歯の診療科」の患者様を担当させて頂いております。先生方のチェックが厳しく、至らないところがあればすぐに容赦なく指導が入ります。正直怖いです。

ですが、経験値に慢心して、自身では気づくことのできなかつた事を指摘して頂けるので、逆に自己研鑽に励むモチベーションになり、心、技ともに上達できる大変恵まれた環境であることは間違いないです。

外来全体のことについて。

移転して1年経過し、なんとか軌道に乗ってき

たという感はありませんが、逆に色々な細かい問題点も顕在化してきたように思っています。

その証拠に、各方面から厳し

いご意見を日々、頂戴しております。

移転当初は「外来に歯科衛生士が増える」ということで、大きな期待を持った先生方も多くいらっしまったことでしょう。

私達は期待に応えられているでしょうか？

折角意見を頂いても、多くは、なおざりになったまま現在に至っています。

先生方の期待は不信に変わってしまったのではないのでしょうか？

このままでは先に見えるのは破綻です。

それを回避するためには、常に意識のアンテナを広げ、「ニーズ」に素早く対応する柔軟かつ真摯な姿勢が求められると私は思います。

私達の働き方如何で、新潟大学における今後の歯科衛生士の立場が問われる「評価」の時期。

各々が積極的に「外来」「診療」に関わっていかねければなにも始まりません。

まずは関わらなければ、改善すべき点も見つからないでしょう。

最後に My プチ自慢。

矯正科、予防歯科、口腔外科、顎関節治療部、インプラント治療部、画像診断診療室（現：歯科放射線科）、保存科、3ブロック……関わった診療科の数の多さは当院歯科衛生士の中で No.1 です！

記録よりも記憶に残る歯科衛生士であることを祈りつつ……。



## 新外来棟 歯科外来手術室の紹介

歯科外来 4・5階看護師 遠藤千佳

歯科外来手術室を担当しています、副看護師長です。歯科外来手術室は2012年11月26日の新外来棟開設にあたり、新たに設けられた施設です。旧外来棟の口腔外科外来で行われていた埋伏歯抜歯を含めた小手術、インプラント外来で行われていた非静脈内鎮静法下でのインプラント埋入などのインプラント関連の手術、そして歯科麻酔科外来で行われていた障がい者・歯科恐怖症患者・異常絞扼反射の患者様に対する静脈内鎮静法や笑気麻酔で行う治療のすべてを1ヶ所にまとめました。位置づけとしては、新潟大学医歯学総合病院中央手術部の分室となります。

歯科外来手術室は、新しく開設されることから移転前から開設に向けての準備が必要でした。私は、看護部長から「外来は移転があるから、頑張って」と言われ、2011年4月より歯科外来に移動になりました。移転まで2年切った状態です。口腔外科・歯科麻酔科外来担当ということは、もれなくこの新しく開設される歯科外来手術室の準備を検討することがついてきました。手術室は3部屋あります。そのうち1つが歯科麻酔科管理（静脈内鎮静法など）の必要な処置を行う部屋になります。いったいこの3部屋で全て収まるか否かが一

番の心配事でした（特に口腔外科の埋伏歯抜歯などが2部屋で収まるのか）。そのため過去の手術件数を調査し、シミュレーションしてみたところ計算上は収まることにはなりますが、春や夏の繁忙期は大丈夫なのか、麻酔科管理外の部屋が2部屋しかないことから並列で2人までという制約のなかで本当にやっていけるのか悩みました。新外来棟手術室WGも立ち上がり、システムや実際の手術の稼働、また予約について検討がなされていきました。そのほかにも、棚や作業台など移設の必要な物の選択、新棟における配置の検討、器具類の洗浄・滅菌行程、看護師の業務など細かい検討も重ねていきました。外来手術室の移転の際は看護師スタッフが使いやすいように配置や収納を考えて移転作業を行ってくれました。移転し外来手術室が稼働し始めても、実際の業務に合わせながらさらに使いやすさを模索しながら変更するなど、スタッフ一同頑張ってくれました。

ようやく1年経過し歯科外来手術室も現在の形に落ち着きました。手術室は3室あり、9：00～16：00まで使用可能となっています。看護師は手術室・歯科麻酔科外来担当の3名で業務にあたっています。移転前は不安なことが多々ありま





したが、実際に稼働してみると意外とうまく稼働するもので、この1年を振り返ると1ヶ月で180~250件ほどの手術室利用があり、そのうちの30件前後は静脈内鎮静法など歯科麻酔科管理を行いながらの処置となっています。移転前の手術件数とさほど変わらない件数となってきました。歯科外来手術室では、入室する患者様すべてに事前に血圧測定や体調確認を行い、患者確認のためのリストバンドの装着を行っています。入室してからは患者様から名前・術式・部位を言ってもらい患者様そして医療者が共に患者名や手術部位を確認しています。さらに開始時のタイムアウトもおこなっています。手術中は全患者様にモニターを装着しています。このようにすることで手術中の患者様の安全に努めています。ちなみに本日（こ

の原稿を作っている時ですが）は静脈内鎮静法2件と口腔外科の埋伏歯抜歯等の小手術が15件でなかなか忙しい日でした。少ない看護師で何とか切り盛りしていますが、さすがに目が回りそうです。それでも、患者様の安全第一を考え、そしてできるだけお待たせすることのないようにスタッフ一丸となって頑張りました。

今後は、障がい者の歯科治療を日帰りの全麻という話もあります。手術室2は全身麻酔がかけられる設備が整っていることから今後活用の機会が増えることと思います。今以上に患者様に安全そして安心な歯科治療を提供できる歯科外来手術室を目指して、日々頑張っていきたいと思っております。

